

建設企業常任委員会行政視察概要

令和5年8月10日（木）

於 国土交通省 会議室

午前10時30分～午後0時

1 調査概要・説明…………… 国土交通省道路局企画課道路経済調査室長

企画課道路経済調査室課長補佐

企画課道路経済調査室調査第二係長

「デジタル技術を活用した渋滞対策について」

ビッグデータを活用した渋滞対策について、国土交通省から説明を受けた。

デジタル技術を活用した道路システムの整備については、道路の舗装損傷を目視確認からAIによる画像分析での自動検知、特殊車両通行確認システムのデジタル化の推進、地下埋設占用物件の位置情報の3次元化イメージなどデジタル技術の活用により、道路システムのDX化も一層進んでいる。

また、道路の性能、価値を高めるといふ点についてイメージ図を用いた説明を受け、道路の将来の可能性や価値を高める技術について説明を受けた。諸外国の道路サービスの現状と道路ネットワークの国際比較から大都市圏での渋滞状況とそれによる時間ロス、そこから計算したCO2排出量の想定など様々なデータを提供して



いただいた。加えて人口減少や巨大災害リスクの切迫などを乗り越えるために策定した第3次国土形成計画の説明を受けた。

デジタル技術を積極的に活用していくことにより、渋滞の経済的、環境的な課題に大きく寄与することができ、改善できる可能性がある」と説明していただき、最後に本市の播磨臨海地域道路（第二神明明石西IC～姫路市広畑区、太子町を結ぶ）につい

でも意見交換を行った。

2 主な質疑応答

問 ビッグデータを活用して渋滞緩和に取り組んでいきたいが、行政がデータを見ることができるのか。

答 いろんなビッグデータがあり、見られるようになりつつある。交通量データなどは自治体と連携して使っている。他にも色々あり、車のデータと携帯電話の人流データなどを組み合わせて活用する機会が多い。

問 明石も人口が増えており、自然と交通量も増えている。まだ計画道路がないところに予想以上に渋滞が起こっており、この人たちはどこから来ていて、どこを改善すればいいのかを、データを使いながら渋滞緩和できる施策を考えたいのだが、何かアドバイスはないか。

答 どこからどこにという分析は、色んなデータを活用して、できるようになってきている。しかし、簡単に解決できるものではない。データが分かっても答えがない場合も多く、非常に難しい部分もある。一番効果的なのは何かを減らすこと。本気で何かをしようとするれば痛みが伴うこともあり、段階的な解消もあるかと思う。何が課題かを見極めて、はっきりと原因が分かればそこを改善する。いろんな容量を増やことも必要だが、右折レーンを延ばすとすごくよくなったというような事例もあったりする。テクニックみたいなところとあわせて原因側にも何か働きかけるといいと考える。

問 本市でも車の交通量を減らすという取組は試してみる価値があると考えますが、福岡市以外でも先進事例はありますか。

答 いろんなケースがある。オリンピックの開催など何か時期的なものや限られている期間などであれば実行しやすい。一番簡単なのは観光で、例えば鈴鹿に F1 が来る週末は協力しようとか、山形のサクラランボ狩りのシーズンはこうしようなどもありますし、工場などで終業時に一斉に帰るのではなく、協力しようなど、何か分かりやすいテーマ設定がある方が頑張りやすい。いつも頑張ろうと言っている方がなかなか達成は難しい。

以 上